

# 試験報告書

依頼者 株式会社 エコ・コンパス

一般財団法人

日本食品分析センター

東京都渋谷区元代々木町52番1号



検 体 飲食店専用エコ・ウォッシュ 掃除王 pH12.5

表 題 殺菌効果試験

2019 年 07 月 04 日当センターに提出された上記検体について試験した結果をご報告いたします。

## 殺菌効果試験

### 1 依頼者

株式会社 エコ・コンパス

### 2 検 体

飲食店専用エコ・ウォッシュ 掃除王 pH12.5

### 3 試験概要

検体に試験菌液を接種後(以下「試験液」という。), 所定時間後に試験液中の生菌数を測定した。また, あらかじめ予備試験(中和条件の確認)を行い, 検体の影響を受けずに生菌数を測定できる条件を確認した。

### 4 試験結果

結果を表-1, 試験条件を表-2に示した。

なお, 試験液をSCDLP培地で希釈することにより, 検体の影響を受けずに生菌数の測定ができることを予備試験(表-2 中和条件を参照)により確認した。

表-1 試験液の生菌数測定結果

試験菌	対 象	生菌数(/mL)			
		開始時	15秒後	30秒後	60秒後
カンピロバクター	検 体	—	<100	<100	<100
	対 照	$1.9 \times 10^7$	$1.3 \times 10^7$	$1.0 \times 10^7$	$2.6 \times 10^7$
大腸菌 (O157:H7)	検 体	—	10	<10	<10
	対 照	$8.4 \times 10^5$	—	—	$9.2 \times 10^5$
サルモネラ	検 体	—	<10	<10	<10
	対 照	$9.7 \times 10^5$	—	—	$9.1 \times 10^5$

<10及び<100：検出せず

保存温度：室温

対照：精製水（カンピロバクターは生理食塩水）

表-2 試験条件

試験菌液	試験菌	① <i>Campylobacter jejuni</i> subsp. <i>jejuni</i> ATCC 33560 (カンピロバクター) ② <i>Escherichia coli</i> ATCC 43895 (大腸菌, 血清型O157:H7, ベロ毒素 I 及び II 型産生株) ③ <i>Salmonella enterica</i> subsp. <i>enterica</i> NBRC 3313 (サルモネラ)	
	試験菌①	前培養: 5 %馬脱繊維血液加Blood Agar Base No.2(OXOID), 35 °C±1 °C, 2~3日間微好気培養 菌液調製溶液: 生理食塩水 菌数: 10 <sup>8</sup> ~10 <sup>9</sup> /mL	
	試験菌②及び③	前培養: 普通寒天培地[栄研化学株式会社], 35 °C±1 °C, 18~24時間好気培養 菌液調製溶液: 精製水 菌数: 10 <sup>7</sup> ~10 <sup>8</sup> /mL	
試験液	検体10 mLに試験菌液0.1 mLを接種		
保存条件	15秒, 30秒, 60秒(室温)		
中和条件	SCDLP培地[日本製薬株式会社]で10倍希釈		
対照	試験菌①: 生理食塩水 試験菌②及び③: 精製水		
生菌数測定	試験菌①:	5 %馬脱繊維血液加Blood Agar Base No.2, 平板塗抹培養法	35 °C±1 °C, 5日間微好気培養
	試験菌②及び③	SCDLP寒天培地[日本製薬株式会社], 混積平板培養法	35 °C±1 °C, 2日間好気培養

以 上